

栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(2)

— 学生による自己評価を通じた実習方法の改善 —

平 光 美津子

東海学院大学健康福祉学部管理栄養学科

要 約

管理栄養士養成課程における「栄養教育論実習」について、前報において、実習題材と実習方法を検討すると共に、学習カルテを作成し大学生が自己の学習成果を振り返ったことを理解度として捉え分析した。また、平成28年実施の新しい管理栄養士国家試験のガイドラインも参考にしながら、今後の実習に教育効果を得るための改善策を検討する。

キーワード：栄養教育、実習方法

1. はじめに

管理栄養士養成課程の専門科目のひとつである「栄養教育論」領域では、行動科学に基づく栄養教育に比重が置かれる様になり、対象者の食行動是正に向けた栄養教育プログラムを立案・実施・評価する技術は、実習で症例別に学習している。平成25年8月24日に、管理栄養士課程における教育の在り方に関する検討会が、特定非営利活動法人日本栄養改善学会において「管理栄養士養成課程における専門基礎分野・専門分野の実験・実習・演習について検討会報告」¹⁾を発表している。前報²⁾では、検討会報告の「栄養教育・指導」を指標として、平成26年前期「栄養教育論実習」の題材・内容の整合性について示した。また、自記式の学習カルテ(5段階評価)を起案し、学習前後の点数差を比較して、プラスを理解度として捉え、点数差が少ない題材は授業法を見直すと報告した。今回は平成27年度前期「栄養教育論実習」の題材と内容について工夫したことを報告する。更に、平成27年2月に改定が発表された平成28年3月実施の「管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)改定検討会報告」³⁾を受け、今後に向け「栄養教育論実習」で取り上げる題材について提案しながら考察することを目的とする。

2. 方法とその意義

検討会が例示する「栄養教育・指導」の実習内容を指標とし、平成26年度と平成27年度の「栄養教育論実習」の題材と内容を比較する。前報²⁾で使用した自記式の学習カルテとは、実習題材別に学習前後の理解度を5段階で自己評価する用紙である。用紙には授業評価に影響しないことを明記、説明し、記入については主体性に任せ、個人を特定しない統計情報として集計した。この詳細は前報で報告済みである。学習カルテ作成にあた

り、手がかりとしたものは、教職履修カルテ(文部科学省)の中の「必要な資質能力についての自己評価」⁴⁾の部分である。栄養教育の技術に関する題材と到達目標を「～を行うことができる」と、具体的な表現で併記したので、管理栄養士として栄養教育に必要な資質や能力を自覚できるものとする。学習カルテは、実習で学生が作成した全ての課題と共にファイルに綴じる。それを見返した時に得意・不得意な箇所に気づきが生じ、自身の考察を読めば、授業中に何を学んだのか振り返ることができる。ファイルは、臨地実習の参考資料となり、今後の学習に何が必要なのかを考えさせるヒントにもなる。理解度の結果は、PDCAサイクルに基づき、教員自身の授業の見直しと実習題材の点検に役立つ。

3. 管理栄養士養成課程の科目と時代背景

我国の健康施策の背景と、管理栄養士養成課程の科目の関係を示す。平成14年の栄養士法一部改正で管理栄養士の業務が明確化され、栄養士法施行規則には管理栄養士養成課程の教育内容が示された。管理栄養士国家試験の受験科目は、厚生労働省が出題基準(ガイドライン)を発表しているが、養成課程の教育内容を網羅するものではなく、教育の在り方を拘束するものではない⁵⁾としている。

平成15年に、管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム検討会が発足し、平成21年に、特定非営利活動法人日本栄養改善学会で「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム(大項目、中項目、小項目で分類・整理)」⁶⁾を科目毎に発表した。平成23年に、第一次管理栄養士養成課程における教育の在り方に関する検討会が同学会において、基礎専門分野・専門分野毎に実験・実習・演習の内容を示し、平成25年8月に、第二次同検討会(以下、検討会と記す)が、科目の

到達目標と共に項目・目的・内容・具体的な例示を発表した。「栄養教育・指導」実習の到達目標は、「対象者の健康・食生活に関する情報収集、優先課題の特定、目標設定、学習計画の立案、実施、評価、およびそのフィードバックまでのPDCAサイクルの作業を体験的に学習して臨地実習などの学外実習で活用できるスキルを習得する。」¹⁾と示された。

厚生労働省は、国家試験ガイドラインを平成17年、22年、27年に科目名は変えず内容を改定してきた。平成27年の改定は、平成28年3月実施「第30回国家試験」から採用される。ガイドラインが見直される理由は、日本人の健康問題が増え、生活習慣病の有病率が依然として高い為、単に情報の周知にとどまらず、重症化予防に焦点をあて意識の変化をもたらせるという施策になったからである。また、内閣府は第2次食育推進基本計画の中で、「食」に関する情報が氾濫している一方、受け手である国民が正しい情報を適切に選別し活用することが困難な状況も見受けられる⁷⁾と記している。管理栄養士の業務は、対象者に正しい情報を提供し、健康的なBMIを維持させ、栄養の偏りや食習慣を是正して、健康に過ごせる期間を長く保たせるように、「食行動の変容」を支援するものである。この時代背景の上に、複雑化している業務が実行できる管理栄養士が求められ、その能力を育成するためのガイドラインが見直される為、管理栄養士養成課程の授業方法も見直す必要がある。

4. 演習・実習の工夫について

演習・実習の指標である検討会の「栄養教育・指導」の「項目と目的」を表1に、平成26年度前期「栄養教育論実習」の題材と内容を表2に示す。授業は検討会の

表1. 「栄養教育・指導」実習の例示

項目	目的
対象者アセスメント・目標設定 (Plan)	対象者にあったアセスメント項目を選択し、アセスメントを実施して栄養・食生活における栄養教育・指導の優先課題を抽出
栄養教育プログラムの作成 (Plan)	目的達成に向けて学習指導案や支援計画を作成、そのための教材や教具を作成・決定、評価計画を作成
栄養教育プログラムの実施 (ロールプレイ) (Do)	個別栄養カウンセリング実施、対象者が小集団の時は効果的なプレゼンテーションの検討実施、グループダイナミクスを活かしたグループカウンセリングの実施
モニタリング・評価 (Check)	栄養教育プログラムの実施記録の作成と経過評価を実施
評価結果のフィードバック (Act)	評価結果を栄養教育プログラムにフィードバックするための改善案作成

出典：専門分野の実習「栄養教育・指導」：第二次管理栄養士養成課程における教育の在り方に関する検討会、平成25年¹⁾より

表2. 平成26年度栄養教育論実習の実習題材と主な内容

実習題材	主な内容
肥満者の減量計画	模擬対象者のデータから減量計画を立てエネルギー量及び栄養素量を設定する。
教材作成 (特定検診指導)	特定保健指導対象者向き教材(リーフレット)作成。表紙・導入→展開→まとめの流れで正しく分かり易い内容を立案する
6・6式討議	6・6式討議を実施と、対象集団(青年期)の問題点を明確化し改善策を討議する。
個人の食事摂取基準	日本人の食事摂取基準の理解。BMIからエネルギー及び栄養素量を設定する。
秤量法等各種調査による実態把握	自身の食習慣や休養調査問診表、生活時間調査(運動EX)、秤量法によるエネルギー及び栄養素の算出・評価、フードガイド及び改善策
総合的アセスメント	自身の実態(身体・栄養・運動・休養他)を総合的にアセスメントする。
栄養カウンセリングの技法	模擬対象者と栄養士との関わり方、傾聴・受容・共感的理解・開かれた質問・要約・沈黙の尊重など技術の理解とロールプレインを実施する。
行動変容段階モデル	行動変容段階のモデルに応じたはたらきかけの技術を理解し、自身の問題行動の動機や原因を捉えて自己効力感を高められる情報を提供する。
栄養カウンセリングシナリオ作成	自身の行動変容段階に応じたカウンセリングのシナリオを、カウンセリング技法を取り入れて作成する。
SOAP形式の記録	模擬対象者の主観的情報と客観的情報や既往歴・生活状況などからのアセスメントと栄養教育計画を立案する。
プログラムの作成と教材の作成	対象者の設定から問題点を絞り、栄養教育方法を起案し、プログラムを作成して時間指導案にふさわしい栄養教育教材を選定・作成する。
プレゼンテーション	作成した栄養教育プログラムや教材などを用いて聴き手に対して表現する。
栄養教育プログラムの評価	栄養教育プログラムや教材について自己・他者評価をし、意見を的確に発言する。フィードバックテストを分析する。

*下線(波)部分は削除し、下線(実線)は平成27年に深めた題材。

例示に対応させ、栄養アセスメントに基づく栄養ケアプランの作成及びplan-do-check-actのcycle業務を重視した総合的な栄養マネジメント能力を育成するものとして題材を考え組み合わせた。平成27年度に用いた題材と内容を表3に示す。下線部分は平成26年度からの変更である。(Plan)の項目では、平成26年度の「肥満者の減量計画」と「個人の食事摂取基準」を合わせ、平成27年度は「個人の食事摂取基準2015の理解」に変えた。健康的なBMIはエネルギー収支バランスの指標ということを理解させる為に、一斉演習で自分のBMIと標準体重を計算し、基礎代謝基準値と体重、身体活動レベル(Physical Activity Level)でエネルギー必要量を決め、身体活動の分類メッツ値(metabolic equivalent)も求めた。肥満者の症例は、体重1kgを約7,000kcalとし減量計画を立てる実習をした。平成26年度の「秤量法等各種調査による実態把握」は、秤が無い家庭が多い為、「目安量の記録」に変更した。

表 3.平成27年度栄養教育論実習の実習題材と主な内容

実習題材	主な内容
6.6 式討議	6・6 式討議を実施と、対象集団(青年期)の問題点を明確化し改善策を討議する。
集団教育の全体プログラム	模擬集団の健康診断結果から問題点を解析し、栄養教育の全体プログラム、学習指導案を作成する。
教材作成(特定検診指導)	特定保健指導対象者向き教材(リーフレット)作成。表紙・導入→展開→まとめの流れで正しく分かり易い内容を立案する。
個人の食事摂取基準 2015 の理解	BMI 判定、性・年齢・身体活動レベル別のエネルギー量、栄養素量を設定する。肥満の場合は、体重 1 kg 分=7000kcal を基本に減量計画を立てる。
計測と秤量法	自分の身体計測、問診、「運動 EX」,「3 日間食事目安量記録」からアセスメントする。
栄養カウンセリングの技術	模擬対象者と栄養士との関わり方、傾聴・受容・共感的理解・開かれた質問・要約・沈黙の尊重など技術をロールプレインする。
栄養カウンセリングのシナリオ作成	自身の行動変容段階に応じたはたらきかけの技術を理解し、カウンセリングのシナリオを、カウンセリング技法を取り入れて作成する。
食事調査結果の解析	食事記録(目安量)の食品と重量を把握しパソコンで栄養価計算と食事摂取基準、栄養比率・食事バランスガイドなどの意味を理解する。
食事調査結果の解説	食事摂取基準、食品群別重量、エネルギー産生栄養バランス、動物性たんぱく質比、緑黄色野菜比率、食事バランスガイドの SV を食事改善に向け提案する。
プログラムの作成と教材の作成	対象者の設定から問題点を絞り、栄養教育方法を起案し、プログラムを作成して時間指導案にふさわしい栄養教育教材を選定・作成する。
プレゼンテーション	作成した栄養教育プログラムや教材などを用いて聴き手に対して表現する。質疑でインタビューをする。
栄養教育プログラムの評価	栄養教育プログラムや教材について自己・他者評価をし、意見を的確に発言する。フィードバックテストを分析する。
自主的に意見を発言する	他のグループの栄養教育プログラムやプレゼン内容について、自分の意見を的確にまとめて発言ができる。

*下線(実線)部分は平成 27 年の授業で内容変更した部分。

(Do) の項目では、平成 26 年度の「行動変容段階モデル」については「栄養カウンセリング論」の講義で深めたので、平成 27 年度は「栄養カウンセリングのシナリオ作成」の導入に入れ込んだ。「SOAP 形式の記録」は、臨床栄養学実習における「臨床ケア・マネジメント」の「仮想症例に対する POS に基づく評価(中略)記録」で行うので、題材から外した。

(Act) の項目では、平成 27 年度の「食事調査結果の解説」が「総合的アセスメント」に含まれていたため、内容を独立させた。パソコンの栄養価計算ソフトに慣れ、自動計算のグラフを見て指導コメントを記入するのでは、真の力がつかないと考えたからである。グラフ作成根拠の計算式を書かせ数値の意味を理解させた。「エネルギー産生栄養素バランス%」「飽和脂肪酸%エネルギー」「n-3 系脂肪酸、n-6 系脂肪酸比」「食品群別重量±」「動物性

たんぱく質比率%」「緑黄色野菜比率%」「食事バランスガイドの主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物の(SV)⁸⁾」の評価についてである。学生が不得意な題材の一つに、栄養教育プログラムの作成がある。理論でプログラムの構成を学習しても、対象者の身体状況・食習慣・運動習慣など生活背景は様々なので、応用力と関連教科の学習内容を統合する力が必要となる。症例別プログラム例は多い程解り易いので、実習の教科書⁹⁾を 3 年計画で作り変え、新刊¹⁰⁾にその掲載を増やした。また、特定保健指導のプログラムの作成を一斉学習で行い基礎力をつけてから、グループで応用症例のプログラム作成に展開させたので、自主的に読み調べる資料として活用された。

5. 演習・実習と得意・不得意の意識

知識不足でもワークにより理解は深まるという自身の研究で、平成 20 年～23 年に演習は学習効果があると報告^{10)~14)}した。「食事バランスガイド」(厚生労働省、農林水産省)を教育教材に用いて、対象を一般者、栄養士養成課程学生、岐阜県在勤の管理栄養士・栄養士、管理栄養士課程学生と変え、ワークシートは統一して教育教材の周知及び理解度をみる自記式調査である。「食事バランスガイド」の周知度が低い対象でも、料理イラストを用いたワークに記入すると、自分の 1 日分の適量と普段の食事量を主食、主菜、副菜、牛乳・乳製品、果物の SV を用いて自己診断できた。自記式のワークを行うことで食生活を振り返り、自分に跳ね返る結果を理解して更に学習効果が得られた。現在の実習題材にも活用できている。

前報²⁾の学習カルテ(5 段階評価)で、学習後に平均点が高い題材は、「集団討議」+1.72、「リーフレット作成」+1.71、「カウンセリング技法」+1.52、「シナリオ作成」+1.48 であった。模擬症例で、代理体験することによって気づきが生じたと考える。

「集団討議」は、「大学生の食生活」をテーマに討議したので、仲間の意見を共有して自己を振り返り、グループダイナミクスが生じた。理解度+2 点、+3 点の者の 55.3%が、「やってみて討議のよさを実感した」と記した。しかし、少数の者は「発言が苦手」と不得意な理由を記した。「カウンセリング技法」はロールプレイで、受容と共感が体験でき、67.3%が「カウンセリングの技法がわかった」と記していた。

平成 26 年度の「発言が苦手」についてを、平成 27 年度の改善点とし、以下のことを工夫した。討議は開始前に、食事記録をスライドで見て実態を把握し、討議開

始前に自分の意見をメモする時間を5分間作り、話す心構えの機会を与えた。プレゼンの質疑は全員に発言カードを2枚配り2回の挙手で使い切るというノルマが勇気を与えたので平成27年度も継続した。質疑の後に、発表者が聴き手にインタビューを行い、コミュニケーションを深めつつ対面して意見を収集することができた。この様に討議やロールプレイ、プレゼンは実践的に話す技術が身につく。現場では他職種連携のコミュニケーション能力が求められるので、今後はグループ討議も増やし、発言に慣らしていく計画である。

また、栄養教育マネジメントの「学習目標」「行動目標」「環境目標」「結果目標」の内容の区別が難しいので、「企画評価」「経過評価」「影響評価」「結果評価」の評価項目と対応させ症例を使って実習を深めていきたいと考える。

6. 管理栄養士国家試験ガイドラインの改定

平成27年2月に「管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)」は、管理栄養士業務の進歩と発展を組み入れた内容の改定であるとして改定された³⁾。「栄養教育論」の大項目-中項目-小項目は表4の下線部分で、用語の変更も含め、追加されたものが「行動科学の定義」「イノベーション普及理論」「コミュニケーション理論」「行動分析」「モニタリング」「実施記録・報告」「企画評価」「形式的評価」「総括的評価」「プリシード・プロシードモデル」「ソーシャルマーケティング」「生態学的モデル」である。「栄養教育概論」及び「栄養教育論」で全体的に学習させるが、実習科目の題材として今後に取り入れたい項目については以下に示す。

イノベーション普及理論(新しいアイデアや技術の普及)については、討議をバズセッションに変えて行いたい。コミュニケーション理論(声の調子、姿勢、表情、ジェスチャーなど言葉の裏にある感情)については、カウンセリング実習の観察尺度に加える。栄養教育の評価の項目については、既存様式を変更して評価項目を追加したいと考える。実習期間が半期なので、模擬対象の栄養教育マネジメントの企画案は作成できても、栄養教育プログラムを実施するまでの時間が無い。評価内容は、起案するに留まり、「モニタリング」「実施記録・報告」についても、方法を起案するまでに留まるが現状である。学生が自主的に食行動の変容を実行し、モニタリングシートに実施記録をつけるとすれば、栄養教育をうける対象者の心情をも体験できるものとする。

また、「経済評価」については、現在、支出項目(例:資料作成代、調理実習費、会場費など)を書かせているが、

表4. 改定された管理栄養士国家試験ガイドライン

大項目	中項目	小項目
1. 栄養教育の概念	A. 栄養教育の目的・目標	a. 栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション b. 栄養教育と生活習慣
	B. 栄養教育の対象と機会	a. ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会 b. 健康状態からみた対象と機会 c. 個人・組織・地域社会のレベル別にみた対象と機会
2. 栄養教育のための理論的基礎	A. 栄養教育と行動科学	a. 行動科学の定義
	B. 行動科学の理論とモデル	a. 刺激-反応理論 b. ヘルスビリーフモデル c. トランスセオレティカルモデル d. 計画的行動理論 e. 社会的認知理論 f. ソーシャルサポート g. コミュニティオーガニゼーション h. <u>イノベーション普及理論</u> i. <u>コミュニケーション理論</u>
	C. 栄養カウンセリング	a. <u>行動カウンセリング</u> b. <u>ラボールの形成</u> c. <u>カウンセリングの基礎的技法</u> d. <u>行動分析</u>
	D. 行動変容技法と概念	a. 刺激統制 b. 反応妨害・拮抗 c. 行動置換 d. オペラント強化 e. 認知再構成 f. 意思決定バランス g. 目標宣言・行動契約 h. セルフモニタリング i. 自己効力感(セルフエフィカシー) j. ストレスマネジメント k. ソーシャルスキルトレーニング
	E. 組織作り・地域づくりへの展開	a. セルフヘルプグループ b. 組織ネットワークづくり c. グループダイナミクス d. エンパワメント e. ソーシャルキャピタル
	F. 環境づくりとの関連	a. 食べ物へのアクセスと栄養教育 b. 情報へのアクセスと栄養教育 c. 食環境にかかわる組織・集団への栄養教育
3. 栄養教育マネジメント	A. 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント	a. <u>栄養アセスメントの種類と方法</u> b. <u>個人要因のアセスメント</u> c. <u>環境要因のアセスメント</u>
	B. 栄養教育の目標設定	a. 目標設定の意義と方法 b. <u>実施目標</u> c. 学習目標 d. 行動目標 e. 環境目標 f. 結果目標
	C. 栄養教育計画立案	a. 学習者の決定 b. 期間・時期・頻度・時間の設定 c. 場所の選択と設定 d. 実施者の決定とトレーニング e. 教材の選択と決定 f. 学習形態の選択
	D. 栄養教育プログラムの実施	a. <u>モニタリング</u> b. <u>実施記録・報告</u>
	E. 栄養教育の評価	a. <u>企画評価</u> b. <u>経過評価</u> c. <u>影響評価</u> d. <u>結果評価</u> e. <u>形式的評価</u> f. <u>総括的評価</u> g. <u>経済評価</u> h. <u>総合的評価</u>

	<u>F. 栄養教育マネジメントで用いている理論やモデル</u>	<u>a. プリシード・プロシードモデル</u> <u>b. ソーシャルマーケティング</u> <u>c. 生態学的モデル</u>
4. 別栄養教育の展開	A. 妊娠・授乳期の栄養教育 B. 乳児期の栄養教育 C. 学童期・思春期の栄養教育 D. 成人期の栄養教育 E. 高齢期の栄養教育 F. 傷病者及び障がい者の栄養教育	a. 妊娠・授乳期の栄養教育の特徴と留意事項 a. 乳児期の栄養教育の特徴と留意事項 a. 学童期・思春期の栄養教育の特徴と留意事項 a. 成人期の栄養教育の特徴と留意事項 a. 高齢期の栄養教育の特徴と留意事項 a. 傷病者の栄養教育の特徴と留意事項 b. 障がい者の栄養教育の特徴と留意事項

*下線(波)部分は変更、下線(実線)は主として追加された項目。
出典：厚生労働省、管理栄養士国家試験出題基準検討会報告，平成 27 年 2 月 16 日より

社会人になれば、実際に栄養教育業務を行う場合、予算を金額で計上しなければならないので、予算案の必要性も学習させたい。経済効果の費用便益分析に関するワークの必要性も視野に入れておきたい。

7. 今後の課題

表 4 の大項目「栄養教育のための理論的基礎」の中項目に、「栄養教育と行動科学」「行動科学の理論とモデル」「栄養カウンセリング」「行動変容技法と概念」が取り上げられている。大項目「栄養教育マネジメント」の中項目に、「健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント」「栄養教育の目標設定」「栄養教育計画立案」「栄養教育プログラムの実施」「栄養教育の評価」が取り上げられている。これらは、対象者の「食行動の変容」に最も関与し、管理栄養士の知識・技術が重要視される項目である。理論を学習した段階では、用語の意味を覚えることに留まる。実践では、対象者のライフステージ・ライフスタイルの特性に合わせた栄養教育の応用力と教育技術が必要になる。現場で直ぐにそれを活用できるよう、実践事例を多く取り上げた症例を経験できる様に実習題材を工夫していくことが大切である。また、科目間の連携によって科目履修の順序を考慮しつつ、特に、臨床栄養学、公衆栄養学、応用栄養学と関連させ、内容の重複を避けて各科目の重点を深める調整ができると良いと考える。そして、栄養教育論実習の学習効果を分析するには、今後、自己評価の学習カルテを活用しつつ授業内容を点検して、年次比較を行い、実習題材の工夫と効果について考察を続けていきたい。

参考文献

- 1) 第二次管理栄養士養成課程における教育のあり方に関する検討会，(2013 年) 管理栄養士養成課程における専門基礎分野・専門分野の実験・実習・演習について，特定非営利活動法人日本栄養改善学会第 11 期 8 月度理事会報告，平成 25 年 8 月 24 日
- 2) 平光美津子，(2015 年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察—学生による自己評価を通して—，東海学院大学紀要，第 8 号，105-110
- 3) 厚生労働省，(2015 年) 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会報告書，管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会，平成 27 年 2 月
- 4) 文部科学省，(2015) 教職課程履修のカルテ②<自己シート>，履修カルテ例について，文部科学省 H.P.
- 5) 厚生労働省，(2005 年) 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会報告書，管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会，平成 17 年 2 月
- 6) 特定非営利活動法人日本栄養改善学会，(2009) 「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の提案，栄養学雑誌 Vol.67, No. 4, 202~232 (2009)
- 7) 内閣府，(2011 年) 第二次食育推進基本計画，平成 23 年 3 月 31 日
- 8) 厚生労働省・農林水産省，(2005 年) 「食事バランスガイド」，厚生労働省・農林水産省決定，平成 17 年 6 月
- 9) 堀田千津子，平光美津子編著，(2013 年) 『四訂栄養教育論演習・実習—日本人の食事摂取基準 2010 年版対応—』株式会社みらい，平成 25 年
- 10) 辻とみ子，堀田千津子，平光美津子編著，(2015 年) 『栄養教育・栄養指導論演習・実習』株式会社みらい，平成 27 年
- 11) 平光美津子，尾木千恵美，(2010 年) 「食事バランスガイド」ツールの活用に関する考察—未習熟者の認知度・理解度—，東海学院大学紀要，第 3 号，77-84
- 12) 平光美津子 内田美佐子 尾木千恵美，(2011 年) 「食事バランスガイド」ツールの活用に関する考察—第 2 報 岐阜県在勤の管理栄養士・栄養士における活用状況—，東海学院大学紀要，第 4 号，111-118
- 13) 平光美津子 内田美佐子 尾木千恵美，(2012 年) 「食事バランスガイド」ツールの活用に関する考察—第 3 報 管理栄養士・栄養士と一般者(成人)の理解度—，東海学院大学紀要，第 5 号，73-79
- 14) 平光美津子，(2013 年)：「食事バランスガイド」ツールの活用に関する考察—第 4 報 管理栄養士課程における学生の「食事バランスガイド学習前後の適量サービング」の理解—，東海学院大学(東海学院大学紀要)，第 6 号，187-191

A Study on Practice Methods and Educational Effects in Nutrition Education Practice (2)

Improvement of Practice Methods Based on Self-Assessments by University Students

HIRAMITSU, Mitsuko

Abstract

In the report on the “Nutrition Education Practice” in the managerial dietitian training course in the previous volume, I have examined the training materials and methods and also analyzed by the students’ self-evaluations through their study records how the students learned from their practical training. In the present study, based on the new guideline for the 2016 national registered dietitian test, our training approaches were reexamined for further improvements in the educational effects of the future training course.

Keywords : Nutrition Education , Education Practice

— 2015.6.30 受稿、2015.9.27 受理 —